

現代美術作家 杉本博司が挑んだ、伝統芸能「文楽」の新しい極地
『杉本文楽 曾根崎心中』
2013年ヨーロッパ公演が決定
マドリッド・ローマ・パリ

国際交流基金と小田原文化財団は、2013年9月～10月の1カ月間にわたり、人形浄瑠璃文楽「杉本文楽 曾根崎心中 観音廻り」の欧州公演を実施いたします。
同作品は2011年8月に神奈川芸術劇場において初演され、好評を博しました。構成・演出・美術・映像は現代美術作家の杉本博司、作曲は人間国宝の鶴澤清治が手がけ、現在の文楽公演では演出の都合により一部が割愛され上演されている「曾根崎心中」を原文に忠実なまま舞台化し、多くの観客から熱い賞賛の声が寄せられました。そして2013年秋、いよいよヨーロッパでの公演が実現します。

今回のヨーロッパ公演は、「日本スペイン交流400周年」の記念事業としてマドリッドで幕を開けます。慶長遣欧使節が渡欧して日本とスペイン両国間のさまざまな交流がはじまってから400年となる記念の年に、マドリッドのエスパニョール劇場で上演されます。マドリッドでの公演につづいて、海外初の日本文化会館として1962年に開館したローマ日本文化会館の開館50周年記念事業として公演を行います。会場は、ローマで最も格式の高い劇場のひとつであり、ロッシーニのオペラ「セビリアの理髪師」の初演の場所として世界的に知られるアルジェンティーナ劇場です。そして最後に、世界的にも著名な舞台芸術の祭典であるパリのフェスティバル・ドートンヌの目玉公演のひとつとして、パリ市立劇場にて11公演を行います。



© Hiroshi Sugimoto, courtesy of Odawara Art Foundation

公演概要

日程：

マドリッド 2013年9月27日(金) 28日(土)(全2公演) 会場：エスパニョール劇場
ローマ 2013年10月4日(金) 5日(土)(全2公演) 会場：アルジェンティーナ劇場
パリ 2013年10月10日(木)～19日(土)(全11公演) 会場：パリ市立劇場

主催：独立行政法人国際交流基金、公益財団法人小田原文化財団

企画制作：公益財団法人小田原文化財団

協力：独立行政法人日本芸術文化振興会(国立劇場・国立文楽劇場) <調整中>
公益財団法人文楽協会

後援：大阪府 <申請中> 大阪市 <申請中>

各地公演概要

1. マドリード公演

公演タイトル：

Sugimoto Bunraku: Sonezaki Shinju (*Los amantes suicidas de Sonezaki*)

主催： 独立行政法人国際交流基金、公益財団法人小田原文化財団、エスパニョール劇場

共催： 在スペイン日本国大使館

協賛： 三菱商事、日本通運

会場： エスパニョール劇場

【日本スペイン交流 400 周年記念事業】

2. ローマ公演

公演タイトル：

SUGIMOTO BUNRAKU: SONEZAKI SHINJU Doppio suicidio d'amore a Sonezaki

主催： 独立行政法人国際交流基金、公益財団法人小田原文化財団、Teatro di Roma

共催： 在イタリア日本国大使館

助成： 在イタリア日本商工会議所

協賛： チェスキーナ洋子、鈴木千寿、H.I.S.、株式会社フジテレビジョン、Alcantara S.p.A、Mitsukoshi Italia S.p.A.、
Bridgestone Technical Center Europe S.p.A.、株式会社資生堂、Alphanet s.r.l.、m&m medeiaservices s.r.l.、
Miki Travel Agency Italia s.r.l.、Viajes Hanshin S.a.、YKK Mediterraneo S.p.A (以上、敬称略)

会場： アルジェンティーナ劇場

【ローマ日本文化会館開館 50 周年／慶長遣欧使節団 400 周年記念事業】

3. パリ公演

公演タイトル：

Sugimoto Bunraku Sonezaki Shinju – Double suicide amoureux à Sonezaki

d'après Chikamatsu Monzaemon

主催： 独立行政法人国際交流基金、公益財団法人小田原文化財団

協賛： ブシュロン・パリ、エルメス財団、笹川日仏財団、Fondation pour l'étude de la langue et de la civilisation japonaises sous l'égide
de la Fondation de France

共同制作： パリ市立劇場、フェスティバル・ドートンヌ

アドバイザー： エマニュエル・ド・モンガゾン

会場： パリ市立劇場

杉本文楽 公演作品概要

公演タイトル	『杉本文楽 曾根崎心中』
原作	近松門左衛門 『曾根崎心中付り観音廻り』(岩波書店『新日本古典文学大系』より改訂)
構成・演出・美術・映像	杉本博司
作曲・演出	鶴澤清治
振付	山村若
映像	束芋、杉本博司
出演者	鶴澤清治、吉田簗助、桐竹勘十郎 ほか 24 名
上演時間	145 分 (休憩 20 分含む)

『曾根崎心中付り観音廻り』 作品解説

作者： 近松門左衛門

背景： 元禄16年(1703年)4月7日、醤油屋平野屋の手代徳兵衛と堂島新地の遊女お初が梅田曾根崎天神の森で心中をとげる大坂中で話題となった事件から一ヶ月後、近松門左衛門はこの事件を『曾根崎心中付り観音廻り』として脚色、人形浄瑠璃の芝居に仕立て、大阪竹本座で上演。興行は空前の大成功で、当時竹本座の抱えていた借財を一举に返済できるほどの集客を得た。なお、『曾根崎心中』は、世上の出来事を作品化した「世話物」と呼ばれるジャンルの記念すべき第一作として文楽史上に残る名作となっている。

制作意図 杉本博司

我が国においてエロスの問題、つまり色恋沙汰は、詩的関心事ではあっても、長らく宗教的な関心事ではなかった。しかし恋を心中によって成就させることによって、二人の魂が浄土へと導かれるという革命的な解釈が、はじめて近松門左衛門によって披露されたのが、この人形浄瑠璃『曾根崎心中』である。

「恋を菩提の橋となし」と語られる第一段の「観音廻り」には、死に行くお初が、実は観音信仰に深く帰依していたことが伏線として語られる。初演当時、封建道徳に深く縛られていた恋する若い男女に、心中は爆発的に流行した。この世で遂げられぬ恋は、あの世で成就される、と思わせる力がこの浄瑠璃にはあった。江戸幕府は享保8年(1723)、「曾根崎心中」を上演禁止とし、死者の葬儀も禁止した。葬儀禁止は成仏妨害策である。それから232年後の昭和30年になって、この浄瑠璃はようやく復活される。しかしその数百年の断絶のうちに、我々は近松時代の語りや人形の遣い方がどのようであったか、という記憶をほとんど失ってしまった。ただ残されているのは近松の浄瑠璃本と、人形遣い辰松八郎兵衛の出遣い図のみである。



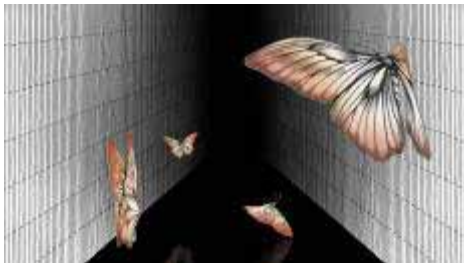
私は今のこの世にあって、私の想像力を飛翔させ、古典の復活こそが最も現代的であるような演劇空間を試みてみたいと思った。そして行き詰まりつつある現代がそれを求めているような気がする。西洋におけるエロスの悲劇は、近松に先駆けてシェイクスピアが「ロミオとジュリエット」で、近松に続いてゲーテが「若きウェルテルの悩み」として書き継がれている。エロスと死のテーマは洋の東西を問わず生まれ、今に至っている。

<杉本博司 プロフィール>

1948年東京生まれ。立教大学卒業後、1970年に渡米、1974年よりニューヨーク在住。徹底的にコンセプトを練り上げ、精緻な技術によって表現される銀塩写真作品は世界中の美術館に収蔵されている。近年は執筆、設計へも活動の幅を広げ、2008年建築設計事務所「新素材研究所」を設立し、IZU PHOTO MUSEUM(静岡県長泉町)の内装設計他、2013年4月4日にはエントランススペースのデザインを手がけた oak omotesando(表参道)がオープン。主な著書に『空間感』(マガジンハウス)、『苔のむすまで』『現像』『アートの起源』(新潮社)。内外の古美術、伝統芸能に対する造詣も深く、演出を手がけた2011年の三番叟公演『神秘域』は2013年3月にNYグッゲンハイム美術館にて再演予定。4月には日本凱旋公演も行われる。1988年毎日芸術賞、2001年ハッセルブラッド国際写真賞、2009年高松宮殿下記念世界文化賞、2010年秋の紫綬褒章を受章。

「観音廻り」では、現代美術作家・東芋の映像作品がスクリーンに登場

伝統芸能と現代美術が見事に融合。桐竹勘十郎が操る一人遣いの「お初」の舞（「観音廻り」）の背景には、東芋のオリジナルの映像作品が華を添えます。



© Tabaimo/ Courtesy of Gallery Koyanagi

<東芋 プロフィール>

1975年兵庫生まれ。99年、大学の卒業制作として制作したアニメーションによる映像インスタレーション《こっぼんの台所》が、キリンコンテンポラリー・アワード1999最優秀作品賞を受賞。01年第1回横浜トリエンナーレで最年少の作家として出品。以後、02年サンパウロ・ビエンナーレ、06年シドニー・ビエンナーレ、11年、ヴェネチア・ビエンナーレ日本館代表作家になるなど数々の国際展やグループ展で活躍。今もっとも注目を集めている映像インスタレーション作家。主な個展として、06年「ヨロヨロン」、原美術館（東京）、「TABAIMO」、カルティエ現代美術財団（09-10年「断面の世代」、横浜美術館（神奈川）/国立国際美術館（大阪）開催、14年MCAシドニーで大規模個展予定。

【広報用写真】

広報用写真をご用意しております。ご使用希望の媒体は、担当までご連絡ください。



クレジット： © Hiroshi Sugimoto, courtesy of Odawara Art Foundation

主催者・問い合わせ

文化事業部 欧州・中東・アフリカチーム 北川
電話 03 - 5369 - 6063

広報用画像・取材のお問合せ

平昌子 (TAIRAMASAKO PRESS OFFICE) Tel:090 - 1149 - 1111 info@tmpress.jp